

一番苦しんでいる人に 一番尽くせる生き方をしたい

パスツール研究所研究員 岡田麻美 さん 創価大学工学部生物工学科卒業

創価大学は、創立以来、
多文化共生社会に貢献する人材を
多数輩出してきました。
卒業生は国際機関やNGOなど
日本のみならず、
世界各地で活躍しています。

岡田麻美さんは、微生物や感染症の世界的な権威として知られるフランスのパスツール研究所で、マラリアの研究をしている。マラリアは、マラリア原虫によって引き起こされる熱帯地域特有の感染症で、現在、アフリカではエイズに次いで多くの人命を奪っているが、地球温暖化によって、将来的には日本などの温帯地域でも大流行するのではないかと懸念されている。



研究室の仲間と(右から三人目)

「ここには一年半前に赴任しました。研究内容は、ヒトの赤血球内に分泌されるマラリア原虫の酵素の分子学的機能解析です。この研究を通じて、抗マラリア薬の新しい標的分子が同定できないかと考えています。私は研究者には向いていないんじゃないかと、悩んだ時期もありました。が、どんな時でも研究の手は止めない、『負けじ魂』というか、そういう粘り強さを大学時代に培った気がします」

子どもたちの実態を知った。紛争によって住む家を奪われ、食べものもなく、飢餓の中でただただ死を待つだけの子どもたち。それ以来、岡田さんの脳裏にアフリカの子どもたちの映像が焼きつき離れなくなった。

「一番の思い出は、大学三年生のときに、南アフリカ共和国のムベキ副大統領(現・大統領)を迎えたことです。アパートヘイトに苦しんだ人びとを思いながら私たちが心を込めて歌った南アの国歌『コシシケレリアフリカ』をととても喜んでく

「よき師、よき先輩、多くの方々との出会いと支えによって、今の自分があると思います。さらに研究者としての力をつけ、自分独自の研究をつづけていきたいと思っています」



おからだ・まみ／愛知県出身。現在は、フランスのパリに在住。パスツール研究所の研究員として勤務。一九九六年に創価大学工学部入学。その後、二〇〇〇年に創価大学大学院生物工学科博士前期課程に進学。二〇〇二年に国立感染症研究所の寄生病物部に所属。二〇〇三年には、東京大学大学院医学系研究科博士過程に進学し、二〇〇六年に保健学博士号を取得。二〇〇六年五月より現在の職に就く。

Okada Mami

